

《担当者名》 歯学部准教授 / 松岡 紘史

【概要】

医療の現場で得られるさまざまなデータは、そのままでは理解することが難しい場合も多い。衛生統計ではそうしたデータを視覚的、数量的にまとめ、有用な情報を抽出するための方法を学ぶ。

【学修目標】

一般目標

統計学の概念を臨床場面で応用できる医療人となるために、統計学の必要性とその実践方法を理解する。

行動目標

1. 統計学の必要性を説明できる。
2. 統計学が用いられている資料からその内容を説明できる。
3. 代表的な統計学的手法を行うことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	序 論	統計学に関して全体の概要を説明すると共に、統計データとして扱うものにはどのようなものがあるかを学習する。	松岡 紘史
2	データをまとめて整理する	データの全体像をつかむために用いる表や図を学習すると共に、データを数値でまとめる代表値や散布度について学習する。	松岡 紘史
3	検定と推定	データが母集団を反映しているかどうかを検討する方法として、検定と推定について学習する。	松岡 紘史
4	2つのデータの差を調べる	データの平均値の差について検討する方法であるt検定と分散の差について検討する方法であるF検定について学習する。	松岡 紘史
5	2検定	カテゴリーの差を検討する方法である 2検定について学習する。	松岡 紘史
6	相 関	データの関連性を検討するための手法である相関分析について学習する。	松岡 紘史
7	スクリーニング検査の妥当性	スクリーニング検査の妥当性を表す指標である感度、特異度、陽性的中率、陰性的中率について学習する。	松岡 紘史
8	因果の推定方法	保健衛生の領域で因果を推定するために用いられているコホート研究や症例対照研究などの研究デザインを学習すると共に、結果を整理する方法である相対危険度やオッズ比などの指標について学習する。	松岡 紘史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（80%）および小テスト（20%）を総合して評価する。
授業中の積極的な発言も評価の対象とする。

【教科書】

指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

参考文献は適宜指示する。

【学修の準備】

配布されたプリントに基づいて予習・復習を行い、講義で取り上げられる内容に関して理解を深めておくこと。（180分）